

令和5年度実施

大阪府民の「健康と生活に関する調査」報告書

【概要版】

■ 調査実施主体

大阪府こころの健康総合センター

■ 調査の概要

- 調査目的 令和5年3月に策定された「第2期大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画」に基づいて、府民のこころやからだの健康、生活習慣、ギャンブル等の参加状況等をお聞きし、ギャンブル等をはじめとした依存症対策を考えるための基礎資料とすることを目的として実施した。
- 調査方法 住民基本台帳から無作為に**18歳以上の対象者18,000名**を抽出し郵送にて自記式アンケート調査票を送付。
- 調査期間 令和5年10月1日～10月31日
- 回答方法 郵送かインターネットのいずれかを選択。
- 回答者数 6,639名(回収率36.9%)、**有効票は6,616票(回収率36.8%)**
【内訳】(回答方法別)郵送回答4,913票、WEB回答1,703票
(性別)男性2,861人(44.0%)、女性3,647人(56.0%)
平均年齢は男性56.4歳、女性54.2歳
- 調査内容 ①基本属性・背景情報、②ギャンブル等行動、③ギャンブル等関連問題
④ギャンブル障害のスクリーニングテスト、⑤クロスアクション、
⑥その他

(※1)本調査における「ギャンブル等」とは、結果が偶然性に左右されるゲームや競技に対して、金銭を賭ける行為のことを言います。また、競馬、競輪、競艇などの公営ギャンブル、パチンコ・パチスロのほか、宝くじやスポーツ振興くじ、証券の信用取引(FX)を含みます。

1. 「ギャンブル等依存が疑われる者」の推計値

- SOGS^(※2)を用いて、過去1年間以内のギャンブル等の経験等について評価を行った結果^(※3)、「ギャンブル等依存が疑われる者(SOGS5点以上)」の割合の推計値は18歳以上の2.0%(1.7~2.3%)^(※4)、「ギャンブル等依存のリスクがある者(SOGS3点~4点)」の割合の推計値は、1.9%(1.6~2.2%)となった。
- 18歳以上75歳未満でみると、「ギャンブル等依存が疑われる者(SOGS5点以上)」の割合の推計値は2.2%(1.8~2.6%)、「ギャンブル等依存のリスクがある者(SOGS3点~4点)」の割合の推計値は、2.0%(1.6~2.4%)となった。

①過去1年間におけるギャンブル等依存が疑われる者 (年齢調整後のSOGS得点分布)(全年齢)

		人数 割合 95%信頼区間	n	SOGS得点		
				5点未満		5点以上
				0点~2点	3点~4点	
全体		人数 割合 95%信頼区間	6,349 (100.0%) —	6,104.2 (96.1%) —	120.2 (1.9%) 1.6~2.2	124.6 (2.0%) 1.7~2.3
性別	男性	人数 割合 95%信頼区間	2,997 (100.0%) —	2,782.8 (92.9%) —	101.4 (3.4%) 2.8~4.0	112.6 (3.8%) 3.1~4.5
	女性	人数 割合 95%信頼区間	3,352 (100.0%) —	3,321.3 (99.1%) —	18.7 (0.6%) 0.3~0.9	12.0 (0.4%) 0.2~0.6

②過去1年間におけるギャンブル等依存が疑われる者 (年齢調整後のSOGS得点分布)(75歳未満)

		人数 割合 95%信頼区間	n	SOGS得点		
				5点未満		5点以上
				0点~2点	3点~4点	
全体		人数 割合 95%信頼区間	4,521 (100.0%) —	4,329.7 (95.8%) —	91.8 (2.0%) 1.6~2.4	99.1 (2.2%) 1.8~2.6
性別	男性	人数 割合 95%信頼区間	2,213 (100.0%) —	2,043.9 (92.3%) —	79.7 (3.6%) 2.8~4.4	89.6 (4.0%) 3.2~4.8
	女性	人数 割合 95%信頼区間	2,307 (100.0%) —	2,285.8 (99.1%) —	12.1 (0.5%) 0.2~0.8	9.5 (0.4%) 0.1~0.7

(※2) SOGS (The South Oaks Gambling Screen)は、アメリカのサウスオックス財団が開発した病的ギャンブラーを検出するための自記式スクリーニングテスト。ギャンブル障害に関する国内外の疫学調査で数多く採用されている。得点範囲は0点~20点で、本調査は合計5点以上の者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。

(※3) 過去1年間でギャンブル等の経験がある者のうち、SOGSの質問項目に全て回答した者を対象とした。

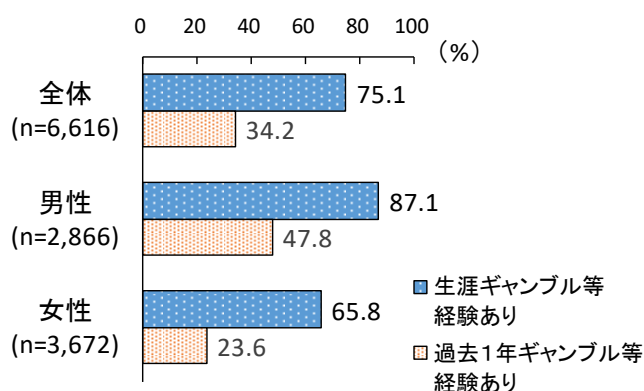
(※4) 数値は年齢調整後の値。()内は95%信頼区間:同一の標本調査を100回行った場合、そのうち95回で推計値がこの範囲内となる区間を表す。

2. ギャンブル等行動

(1)大阪府民のギャンブル等行動

- 生涯のギャンブル等経験率は全体で75.1%、男性で87.1%、女性で65.8%であり、過去1年間のギャンブル等経験率は全体で34.2%、男性で47.8%、女性で23.6%であった。
- 過去1年間にギャンブル等に使った金額(1か月当たり)の中央値は、全体で10,000円(平均203,698円)、ギャンブル等依存が疑われる者(SOG5点以上)では50,000円(平均640,821円)であった。
- 過去1年間に最もお金を使ったギャンブルは、全体で最も多いのが「宝くじ(ロト・ナンバーズ等含む)」で47.5%、次いで「パチンコ」が16.2%であった。ギャンブル等依存が疑われる者(SOG5点以上)で最も多いのは「パチンコ」で42.9%、次いで「パチスロ」20.0%、「競馬」19.0%であった。

③ギャンブル等経験率

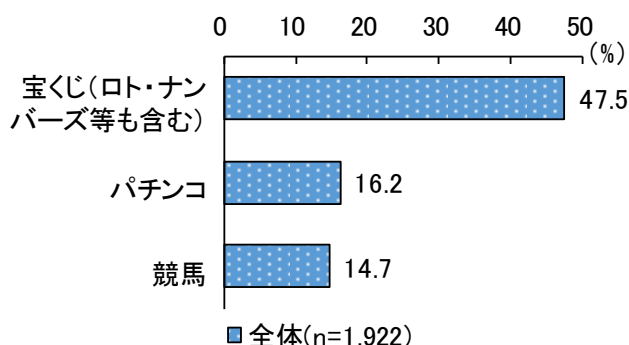


④過去1年間にギャンブル等に使った金額

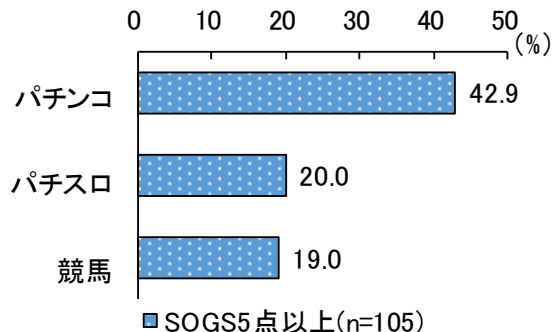
金額	(円)	
	全体	SOG5点以上
最小値	2	10
中央値	10,000	50,000
最大値	50,000,000	50,000,000
平均値	203,698	640,821

⑤過去1年間最もお金を使ったギャンブル等(上位3項目)

過去1年間にギャンブル等の経験がある者



左記のうちギャンブル等依存が疑われる者

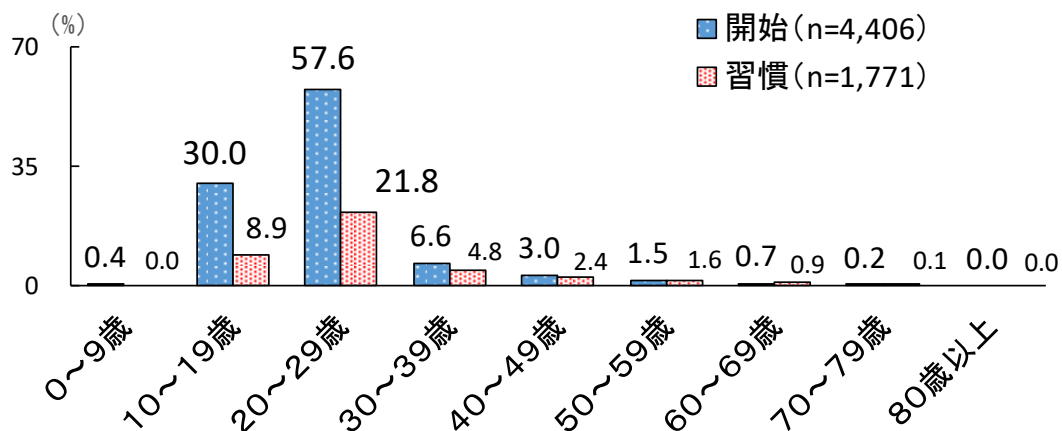


2. ギャンブル等行動

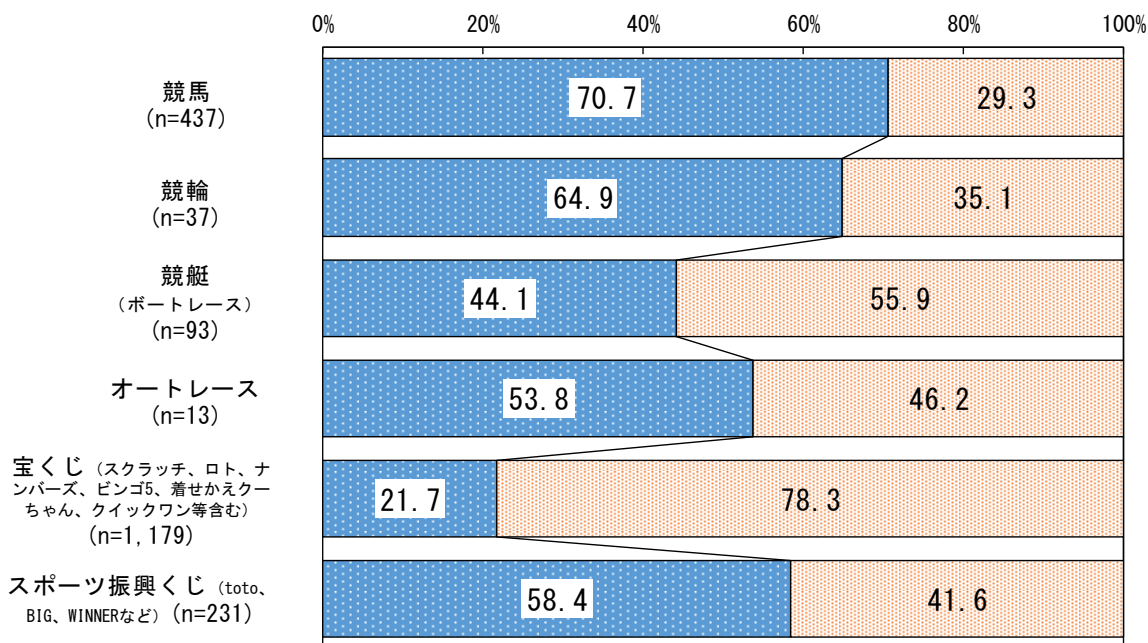
(2) 開始した、習慣化した年代と購入方法

- 初めてギャンブル等を開始した年代・習慣的にギャンブル等をするようになった年代は、いずれも20歳代・10歳代の順で割合が高い。
- 過去1年間にギャンブル等を経験した者の主な券の購入方法について、主にインターネット（オンライン）で購入するのは、「競馬」70.7%、「競輪」64.9%、「スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)」58.4%であった。

⑥ギャンブル等を開始した年代・習慣的にするようになった年代



⑦過去1年間の公営競技等の主な券の購入方法



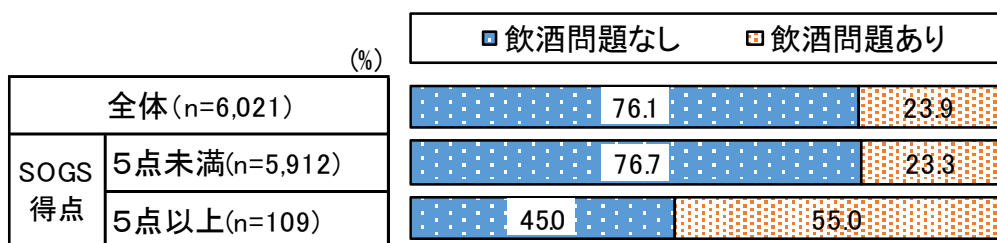
■ 主にインターネット（オンライン）で購入 ■ 主にギャンブル場又は売り場（場外を含む）で購入

3. ギャンブル等関連問題

- ギャンブル等依存が疑われる者(SOG5点以上)の群では、飲酒問題のある割合が有意に高かった。
- ギャンブル等依存が疑われる者(SOG5点以上)の群では、重度のうつ・不安障害が疑われる者の割合が高かった。
- ギャンブル等依存が疑われる者(SOG5点以上)の群では、希死念慮を有する割合が有意に高かった。

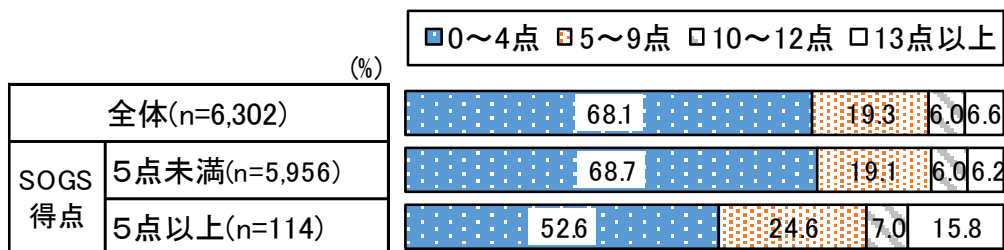
⑧ギャンブル等依存と飲酒問題

AUDIT-C得点評価 男性 0～4点 / 女性 0～3点 : 問題なし
 男性 5点以上 / 女性 4点以上 : 何らかの飲酒問題がある

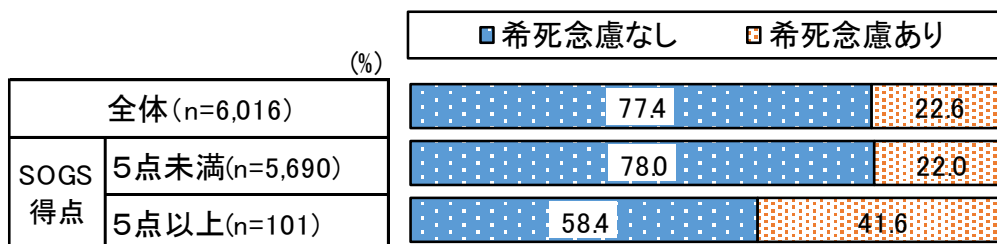


⑨ギャンブル等依存と抑うつ、不安

K6得点評価 0～4点 : 問題なし
 5～9点 : 何らかのうつ・不安の問題がある可能性がある
 10～12点 : うつ・不安障害が疑われる
 13点以上 : 重度のうつ・不安障害が疑われる



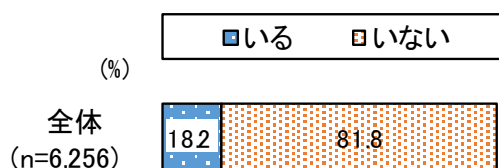
⑩ギャンブル等依存と希死念慮



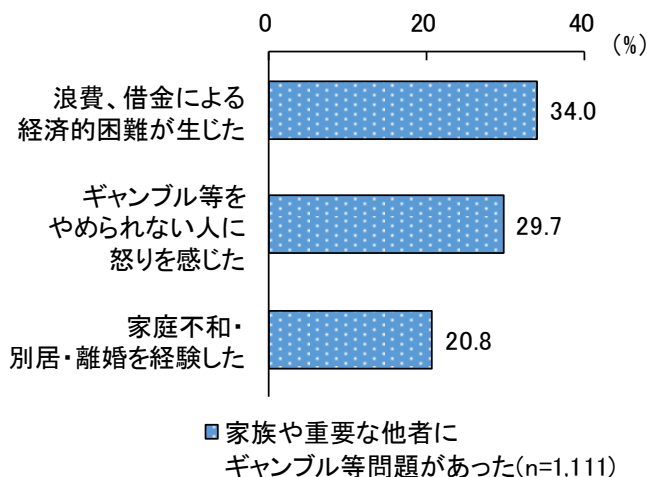
4. 家族や重要な他者のギャンブル等問題

- 家族や重要な他者にギャンブル等問題があったと回答したのは18.2%であった。
- 家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響として、「浪費、借金による経済的困難が生じた」が最多であった。

⑪家族や重要な他者にギャンブル等の問題がある(あった)人の有無



⑫家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響(上位3項目)

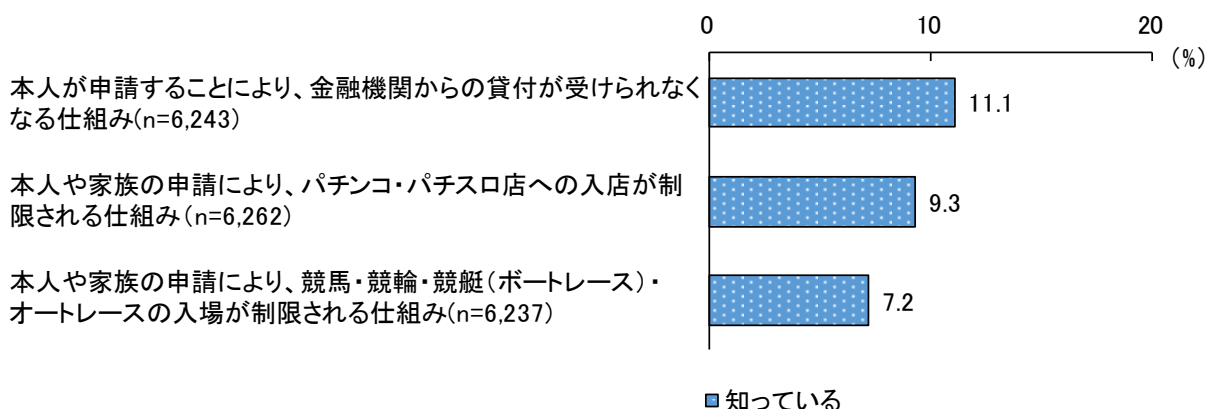


5. 依存症に対する認識等

(1)ギャンブル等依存症対策の認知度

- ギャンブル等依存症対策の認知度は「金融機関からの貸付制限」が11.1%、「パチンコ・パチスロ店の入店制限」は9.3%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は7.2%であった。

⑬ギャンブル等依存症対策に関する認知

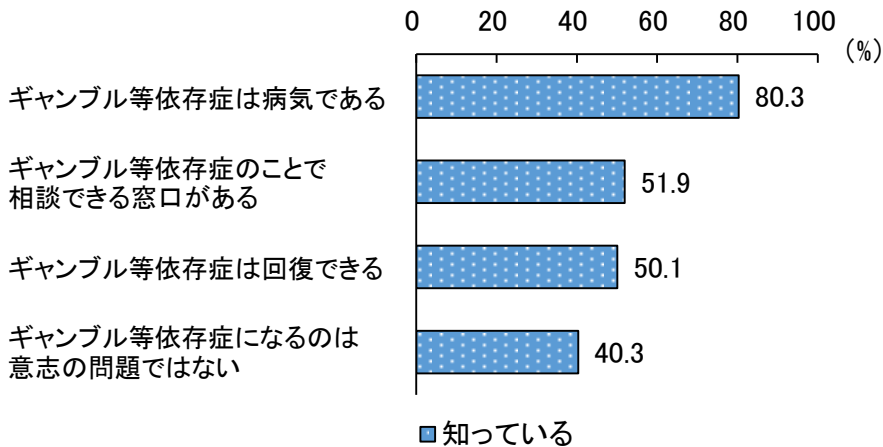


5. 依存症に対する認識等

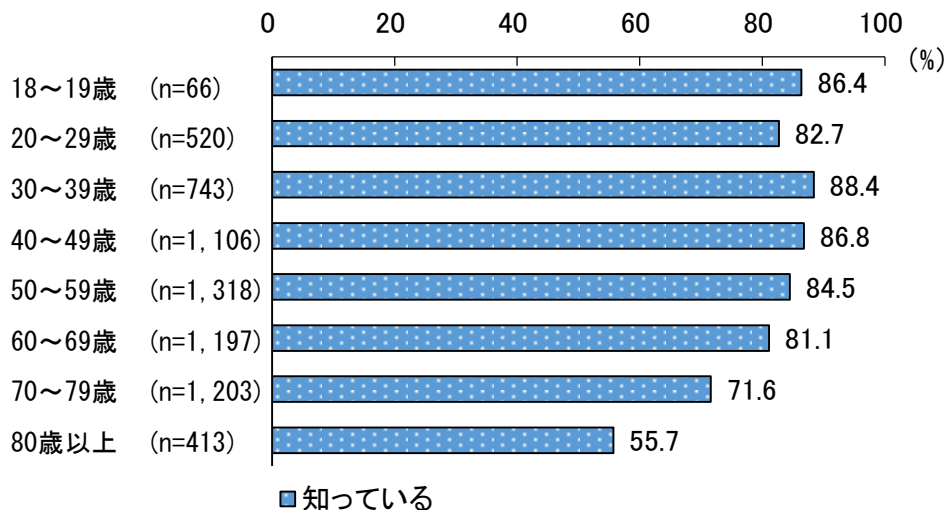
(2)ギャンブル等依存症に対する認識

- ギャンブル等依存症に対する認識は「ギャンブル等依存症は病気である」80.3%、「ギャンブル等依存症のことで相談できる窓口がある」51.9%、「ギャンブル等依存症は回復できる」50.1%、「ギャンブル等依存症になるのは意志の問題ではない」40.3%であった。
- 「ギャンブル等依存症は病気である」の認識を年代別にみると、30歳代が88.4%で最も高く、年代が上がるにつれて、認知度が低くなっている。

⑭ギャンブル等依存症に対する認識



⑮「ギャンブル等依存症は病気である」の認識



本調査のためにご協力をいただきました全ての方々に深くお礼を申し上げますとともに、今後の調査にもご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

参考資料 大阪府及び全国のギャンブル等依存症にかかる実態把握調査結果

	大阪府		全国	
	R5調査 (今回の調査)	R4調査	全国調査(R2)*1 結果報告	全国調査(H29)*2 中間とりまとめ
実施主体	大阪府 こころの健康 総合センター	大阪府 こころの健康 総合センター	久里浜医療センター ※厚生労働省令和2年度 依存症に関する調査研究事業	日本医療研究開発機構 (AMED) ※久里浜医療センターに委託
調査方法	自記式もしくは WEB入力による アンケート	自記式もしくは WEB入力による アンケート	自記式もしくは WEB入力による アンケート	面接調査
調査対象者	18,000名	18,000名	17,955名	10,000名
対象者の選択方法	大阪市・堺市を含む 大阪府内の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上)	大阪市・堺市を含む 大阪府内の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上)	全国の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上75歳未満の 日本国籍を有する者)	全国の住民基本台帳 より無作為抽出
回答者数	6,639名 (回収率36.9%)	3,886名 (回収率21.6%)	8,469名 (回収率47.2%)	4,685名 (回収率46.9%)
うち有効数	6,616名 (回収率36.8%)	3,785名 (回収率21.0%)	8,223名 (回収率45.8%)	4,685名
過去1年以内で ギャンブル等依存が 疑われる者 (SOG5点以上)※	2.0%(1.7~2.3%) (116名/6,349名)	1.9%(1.5~2.3%) (64名/3,683名)	2.2%(1.9~2.5%) (165名/7,985名)	0.8%(0.5~1.1%) (32名/4,685名)

※%は年齢調整後の数値。人数は年齢調整前の実数

※大阪府の調査はR5より年齢に無回答・性別にその他、答えたくない、無回答も有効票として取り扱った。

※SOG5点以上を示すものは、DSM5の診断基準を満たすものより多いと言われている。

出典: Goodie AS, MacKillop J, Miller JD, Fortune EE, Maples J, Lance CE, Campbell WK: Evaluating the South Oaks Gambling Screen with DSM-IV and DSM-5 criteria: Results from a diverse community sample of gamblers. *Assessment*, 20(5):523-531, 2013

*1 松下幸生, 新田千枝, 遠山朋海; 令和2年度 依存症に関する調査研究事業「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」, 2021年

*2 樋口進, 松下幸生: 国内のギャンブル等依存に関する疫学調査(全国調査結果の中間とりまとめ)

(https://kurihama.hosp.go.jp/about/pdf/info_20171004.pdf)(2023年12月21日アクセス)

依存症についてのさまざまな情報をお届け!



薬物



ギャンブル等



おおさか

依存症ポータルサイト

http://www.oatis.jp/




大阪府

大阪市

令和6年3月発行 大阪府こころの健康総合センター 相談支援・依存症対策課
〒558-0056 大阪府大阪市住吉区万代東3丁目1-46

本調査は、令和5年度依存症対策強化事業(大阪府・大阪市共同事業)において実施しました。